

## 意見交換会 ガイドラインに対する主な意見・要望

静岡県	愛知県	三重県
<ul style="list-style-type: none"> <li>・要介護者の避難のルール化が出来ないか。</li> <li>・安全が担保されないまちからは、人口流出が始まる。「命を守る対策」「財産を守る対策」「生産活動を守る対策」「被災時の生活支援のための対策」に分けて考える必要がある。</li> <li>・津波対策ばかりが先行しがちであるが、阪神淡路大震災の教訓である建物耐震・火災対策についての取り組みについて補強すべき。</li> <li>・家屋倒壊防止や家具の転倒防止は自助であるが、耐震性の劣る住宅には高齢者のみが住む事例もあり、費用面からも住宅の耐震化が難しいとの声を聞く。方策が必要である。</li> <li>・自主防災組織の継続性確保で必要なことは、世代交代していく中でのリーダーの養成である。</li> <li>・被害想定で死者数や被害額等ばかりが目立って、「対策を行えばこのくらい被害が軽減される」ということを住民に理解してもらうための方策はないか。</li> <li>・現在は行政が防災一辺倒で進んでいる感があるが、まちが形成された成り立ちを今一度認識し、バランスの取れた将来像を描くことが重要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・液状化・地盤沈下する箇所にある拠点施設についての対策案を示して欲しい。</li> <li>・この地域は、伊勢湾台風の経験があるが、新たに、帰宅困難者や観光客の安全確保、密集市街地対策についても方策検討が必要である。</li> <li>・海上漂流物が復旧復興に向けての物資輸送を阻害するので対策案を示して欲しい。</li> <li>・住民は津波を心配しているが、建物倒壊や火災での被害も大きい。家屋倒壊による被害は、「所有者自身の命の問題」と、避難路閉塞や火災発生による「地域住民の命」両方に影響する。後者の意識啓発も重要である。</li> <li>・濃尾平野では多くが海拔ゼロメートル地帯であり、長期浸水が心配である。対応案を示して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民主導の避難体制の構築を目指し、地域の避難ルールや津波避難計画、防災体制（防災隣組）の確立を目指すことは、自助、互助の観点から有効である。</li> <li>・検討委員会のメンバーへの北勢地域の臨海部の市町の参加があるとよい。</li> <li>・津波到来前に逃げるためには、木造住宅を含む建築物が倒壊しないことが前提である。しかし、旧耐震基準で建てられた木造住宅の所有者は高齢化しているため、費用負担等の課題があり、耐震化に消極的である。住宅全部の耐震化ばかりでなく、寝室、居間等の部分耐震化ならば耐震化が進む可能性もあるためその効果を紹介できないか。また、家具の転倒防止も効果的である。</li> <li>・観光客等に対する防災・減災方策を検討しなければ、想定される被災者が増えるばかりでなく、観光産業が低迷する。</li> <li>・漂流物とその後の啓開に支障をきたすため対策案を示して欲しい。</li> </ul>

静岡県	愛知県	三重県
・まちの中心部が全て浸水してしまう状況下でのまちづくりをどうすべきかもう少し示せないか。		
<b>【共通】</b> ・建物の耐震化が大きな課題であるため、耐震化促進に寄与する方策等を盛り込んで欲しい。		